シビル・ベテランズ ＆ ボランティアズの構想から活動へ

大阪大学大学院工学研究科　　川 谷 充 郎
（シビル・ベテランズの活用ワーキンググループ主査）

1.はじめに

国土防災の適正水準を考えるに際して，退職した土木技術者（シビル・ベテランズ）がボランティアとして活動する場として，すぐに，「防災ボランティア」あるいは「砂防ボランティア」が想起される。しかるに，本特別小委員会で論じられてきたように，国土防災のための公共施設整備の方策を根本的に考え直そうとすることは，土木事業のあり方を問い直すことであり，その観点でこそ，シビル・ベテランズの活動の可能性を模索してきているので，ここでは，その構想からの経緯と具体的な活動状況を報告する。

2.土木事業と土木技術者をとりまく時代背景

21世紀を目前にして，わが国は世界で最も高齢化の進んだ社会となり，今後もさらに生産年齢人口（15歳～64歳）の減る傾向が続き，社会活力の低下が危惧されている。また，このような人口動態の中で，戦後の高度成長期を経て安定成長期に入ったことは，わが国のおかれている状況を特徴付けるものである。すなわち，先進西欧社会に比べて，いまだ社会基盤整備の遅れは歴然としており，高齢化社会・安定成長社会の中でその量と質を充実しなければならない。

社会基盤を支える土木事業は，公共の利益を考慮する行政の計画と営利を目的とする企業活動によって実施されてきた。土木技術者はその行政あるいは企業の一員として社会に役立つ気概をもってその役割を果たしてきたが，遅ればせながら，わが国も成熟社会へと向かう過程において，生活者としての主体性が求められている。すなわち，土木技術者が従来の組織の枠を越えて，社会基盤整備において一社会人として責任ある行動をとるよう求められている。このような活動の連携によって，いまの土木界の抱える多くの社会的な問題の新たな展開が期待される。

前述のように土木事業は組織単位に行われ，その構成員である土木技術者個人はほとんど表に出ないシステムとなっている。土木構造物が“無名碑”と言われる由縁である。その土木技術者は定年退職後，突然個人に戻ってしまう。そして，組織的なケアは皆無に近い状態となり，土木技術者として高度の能力を発揮できる場がなくなる。高い見識のもと，生活者の視点から社会基盤整備に貢献するシビル・ベテランズとして活動できるのではないだろうか。

土木学会は，組織を担う現役の土木技術者を対象としてほとんどの事業を展開してきた。学会とはそもそも会員のボランティア活動によって支えられるのが筋であり，組織によってではない。したがって，これからの学会において，もっと個人としての活動を活性化する場が求められよう。

3. シビル・ベテランズ & ボランティアズの構想

我々のワーキンググループでは，以上の状況のなかで，土木学の専門の技術と知見を活用して，地域コミュニティに必要な社会基盤整備のあり方を助言し，また生活支援ボランティアとして行動する土木技術者（Civil Veterans & Volunteers: ＣＶＶ）の役割と活動の可能性について模索してきている。さらに，地域コミュニティ間を連結する広域のネットワークを構成して，活力のある成熟社会の創造およびその持続的発展に貢献する途についても検討することにしている。

これらの構想の概要を「ＣＶＶ構想について」として次頁に示す。

4. アンケート調査とフォーラム

我々の構想を退職土木技術者に示し，このようなシビル・ベテランズ & ボランティアズの活動に対する意見を調べる目的で後に示すアンケートを実施することにした。対象者は関西在住の約1000余名である。このアンケート集計結果と自由記述意見の分析と考察を次次頁以降に示す。アンケート回収率は26％でそれほど高くないが，回答された方の内，80％余の方がＣＶＶ活動に興味があると応えられたことに，我々は意を強くした。また，回答された方の内，約30％弱の方が何らかのボランティア活動に参加されており，その割合は一般に比べて非常に高い。さらに，興味深いのは自由記述意見であり，ＣＶＶに対する多角的な見方が表明されているが，これは我々のこれまでの議論においてもそうであった。ＣＶＶ活動では，そのような多様性を許容し，各人の持ち味を生かせる方途が必要である。

このアンケート調査をもとに，このような活動に興味をもつ方々に集まって頂き，生の声を聞かせて頂くフォーラムを次のように実施した。

フォーラム「もう一肌ぬぎませんか？－シビル・ベテランズ登場への期待－」
日　時：1998年10月３日（土）14:00～17:00
場　所：阪神・淡路大震災復興支援館フェニックスプラザ
参加者：50名（内，ベテランズ30名，ＷＧメンバー20名）

5. 具体的活動

前述のように，ＣＶＶフォーラムに約30名のベテランズが参加され，具体的な活動を待たれていることより，1999年１月29日（金）にさらに発足会を開催し，当面「まちづくり」，「建設中のトラブル，技術継承」および「防災」の３グループで活動を開始した。

なお，アンケートの自由記述意見の分析の最後に記されているように，ベテランズおよびＷＧメンバーの意見交換にマルチメディアの利用が不可欠であり，特に電子メールの利用を推進し，また，我々の活動を紹介するホームページを立ち上げている。

http://www.civil.eng.osaka-u.ac.jp/~cvv/

CVV 構想について

時代の背景

社会が成熟する中で、生活者である市民には公共事業に対する主体性が求められ、土木技術者には新しい形での果たすべき役割が求められている。

現状 1

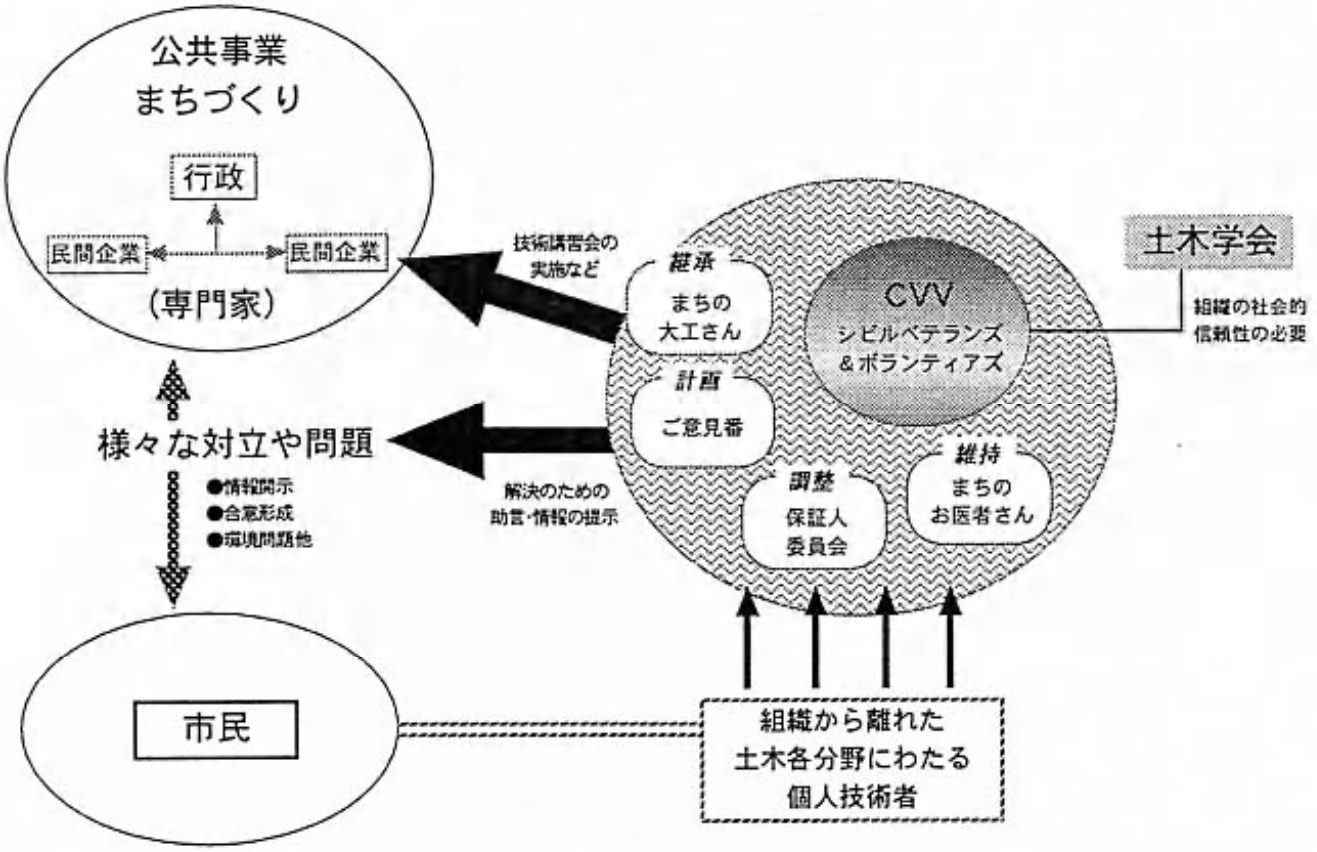
公共事業をつかさどる行政(さらに、実務を行う民間企業)と市民の間には、大小様々な対立や問題が存在し、両者の間に立つことができる中立的組織はまだ誕生していない。

現状 2

土木事業の特性上、退職して1個人となった土木技術者は、長年にわたって蓄積したその高度な技術と知見を活用することができない。

活動の目的

自主的に結集したベテランズ(現役を退いた土木技術者)により広範なネットワークを構成し、中立的な立場からアドバイスや情報の提示を行い、公共事業がより社会に組み込まれるシステムを開発する。そして成熟社会を創造し、継承する。

具体的活動

- ●ご意見番 ..... まちづくり・行政の公共事業等の計画時から関わる
- ●保証人委員会 ..... 事業執行時における官･民の間でのトラブル防止や調整を行う
- ●まちのお医者さん .... 日常の生活において施設の監視、維持に協力し、非常時には応急的対応に参加する
- ●まちの大工さん ..... 技術者として持ち分が縦割りになっているので、その横つなぎを行う